

平成27年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490800016	事業の開始年月日	平成19年2月1日
		指定年月日	平成19年2月1日
法人名	株式会社メディカルケアシステム		
事業所名	グループホームちいさな手 横浜かなざわ		
所在地	( 236-0042 ) 神奈川県横浜市金沢区釜利谷東7-23-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成27年10月17日	評価結果 市町村受理日	平成28年3月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 「チームケア」「人間関係」「ストレス軽減」「スタッフの希望に応じた勤務形態」を親身に考えた働きやすい環境作り。
2. 勤務年数3年以上(14名)介護福祉士(8名)認知症ケア専門士(2名)と経験と資格が備わったスタッフ
3. 親身に入居者様の事を第一に考えた介護
4. 整理整頓・清掃をしっかりと行っての清潔な施設作り
5. 一人一人の能力に合わせた、長期計画でのスタッフ教育
6. バラエティーに富んだレクリエーションの種類

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成27年11月27日	評価機関 評価決定日	平成28年2月7日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京浜急行「金沢文庫」駅西口よりバスで6分、バス停「坂本」下車徒歩6分の所にあります。周りはマンションやアパート、一戸建てが立ち並ぶ閑静な住宅街です。近くの遊歩道は小川が流れ、桜や梅の木が植えられています。東屋やベンチもあり、散歩が楽しめ、利用者の憩いの場となっています。

<優れている点>

隣接して在宅療養支援のクリニックがあり、24時間対応の医療連携を取っており、利用者や家族にとって安心できます。1階には機械浴が設置されており、車いすの利用者もゆっくり湯船につかれ安心して入浴ができます。事業所は利用者にとって自分の家、居住空間であるという観点から、リビングの壁などに作品を貼ったりせず、スッキリとしていて明るく、施設感のイメージはありません。常に整理、整頓、清掃にこだわり、余分な物は置かず、床や手すりなど一日2回塩素拭きをして清潔を心掛けています。また、職員の異動が少なく職員の顔ぶれが変わらないので、同じ職員が利用者とずっと関わり、家族のような関係が築けています。近隣の大学や幼稚園との交流が、利用者に活力を与え喜ばれています。

<工夫点>

花の稽古やペン習字を習っている利用者がいて、事業所は送迎などの支援をしています。利用者は事業所で花を生け直し、玄関ホールなどに飾ることで、役割を得て生きがいに繋がっています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームちいさな手 横浜かなざわ
ユニット名	1階

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある
	<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	3. たまにある
	<input type="radio"/>	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/>	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	3. 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	3. たまに
	<input type="radio"/>	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/>	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/>	3. あまり増えていない
	<input type="radio"/>	4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/>	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/>	2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3. 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	全スタッフにクレドカード（企業理念・介護理念・社是・行動規範が書いてあるカード）を持たせ、毎朝送りの時に出勤者全員で読み上げる事で共有して実践出来るよう取り組み意識向上に努めている。また各フロアの目標は事務所に張り出す事で共有している。	毎朝の申し送り時に、職員はクレドカードを唱和して理念の共有を図っています。各ユニットごとの目標は事務所に掲げています。特に整理、整頓、清掃については、職員は積極的に実践し利用者にとって気持ちのいい居住空間となっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	お花を習いに行ったり、選挙に行くなど、入居後も地域との交流が継続出来るよう取り組んでいる。また今年から関東学院の先生・生徒さんと交流を始め、お互いのイベント交流を図り、運営指針会にも参加して頂いている。	地域の大学や幼稚園と交流をしています。利用者が大学に出掛けハープ摘みをしたり、学生が来所したりしています。また、幼稚園児とボール遊びをするなど利用者の楽しみとなっています。近くの神社の祭りなどでも地域との交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の際、お伝えさせて頂いています。まだ実現出来ていないが認知症カフェなど交流を深められるよう計画している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回必ず行い、地域ケアプラザ・小規模多機能・デイサービス・民生委員・ご家族様・看護師・関東学院の先生など多種多様の方に参加頂き、地域一丸となって行けるよう貴重な意見交換を行っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回消防署長や駐在所にも声を掛けて、民生委員や大学の先生、地域ケアプラザ職員、小規模多機能施設職員、家族などの出席を得て開催しています。事業所の活動報告の後、意見交換をし事業所運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の報告は必ず行っています。また入居者様に対する質問などある時はご相談させて頂き連携を取っています。	区役所主導の区グループホーム連絡会では、他のグループホームとの意見交換や交流をしています。区高齢福祉課へは運営推進会議の議事録を持って行き、事業所の実情を伝え協力関係を築いています。保護課とも連携を取っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関先に張り紙を掲示し、常日頃からスタッフに周知することで徹底しています。また「命の危機がある場合」「他に方法がない場合」「一時的な対応の場合」など、どうしても必要な場合（センサーや鈴など）はご家族様に説明し理解して頂いた上で署名を残して対応させて頂いています。	職員は身体拘束の弊害について正しく理解しています。利用者がその人らしく暮らしていくことを大切にして、職員は常に拘束をしない工夫を考えています。歩行が不安定な利用者にはセンサーマットの使用や歩行補助器具などに鈴をつけるなど、音で利用者の動きがすぐ職員に分かるように工夫しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「身体的虐待」「心理的虐待」「介護世話の放棄・放任」など如何なる事に対しても一切行わないよう指導しています。また、スタッフのストレスから来る反射的な虐待も考えられる為、スタッフの心理的ケアも行い100%防止を目指しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ホーム長と副ホーム長は本部会議にて学び、ミーティングや日頃の会話の中で少しずつ伝えています。また各々「介護福祉士」「認知症ケア専門士」「介護支援専門員」など受験するにあたって学んでもいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に本部の職員同席にて、ご説明させて頂いています。また変更があった時も速やかに連絡させて頂き、不明な点は個々に説明させて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に入居者様の状態を説明させて頂き、医療面に関してはドクター・看護師から、電話やホームまたはクリニックに来て頂き説明させて頂いています。また半年に1回家族会を行い、本部・看護師も参加して、意見交換をさせて頂いています。	年に2回家族会を開催しています。家族会の後にはバーベキューを楽しみ、家族同士、または家族と職員が和気あいあいと話しやすい雰囲気を作っています。家族の面会時には必ず声を掛けて話をして意見を聞いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングを含め、頻繁にスタッフと話す機会を作っていますが、スタッフからも質問・意見を遠慮なく言いに来て下さるので、必要に応じて本社にも相談して、より良いホームになるよう取り組んでいます。	ミーティングでは職員は積極的に意見や提案を出しています。日頃から管理者は意見を聞く姿勢を取り、話しやすい雰囲気の中で、職員は思いついた時に意見を言っています。職員の意見で、看護師による勉強会を開催しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	「人間関係」「各々の能力にあった指導」「徹底した希望休を取り入れたシフト作り」「職場の雰囲気作り」などを中心とした働き易さを追求し、やりがいを持って仕事に取り組んでもらい、公平な目で評価する事に心がけています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	1人1人の経験、力量を把握して慌てずゆっくり覚えて頂けるよう努めています。ホーム内で勉強会を開き指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	運営推進会議などで地域ケアプラザや小規模多機能と交流を深め、質向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時ご本人様に趣味や日課などお聞きした上で、好きな事を継続して続けて頂けるよう支援すると共に、1日も早く環境になれて頂けるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時、ご家族様のご意見を伺い、ケアプランを通してご希望に答えられるよう取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居後も頻繁にご家族様に現状連絡をする事で、安心して頂けるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様とスタッフ間の関係では無く、ご両親のようでお友達のような付き合いが出来ていると思います。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	元々入居者様のご家族と知り合いのスタッフもあり、自然と良い関係が出来ていると思います。またご本人様とご家族様の気持ちを最優先に考えたケアを心がける事で信頼を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前のお友達が頻繁に来られたり、散歩時お友達のお家に遊びに行くなどされる入居者様もいらっしゃいます。	なじみのラーメン屋から出前を取ったりする利用者もいます。家族の協力を得て墓参りや外食に行く利用者もいます。利用者の稽古ごとの送り迎えをしたり、なじみの関係継続の支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士でも好き嫌いがあり、中の悪い方もいらっしゃいますが、スタッフが間に入ってトラブルにならないよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご相談の際はお話を聞かせて頂き、協力させて頂いています。またご家族様の希望で運営推進会議に参加して頂いている方もいます。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	面会に来られた際やアセスメント作成の際お話の中で何を求めているのか傾聴し反映しております。	利用者一人ひとりとの対話を大切にしています。時間をかけて聞くことで、意向を把握しています。また、利用者の表情や動作、行動からも思いを推し量っています。職員は利用者の性格などをよく理解し、タイミングよく声掛けをしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時ご家族様からお聞きしケアプランに反映させて頂いたものを始め、日頃よりご家族様、ご本人様に話を聞き把握出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	常に入居者様に目を配り、お話するなどして把握出来るよう努めています。また月に一回のミーティングでカンファレンスも行い、皆の意見を反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	常日頃からの観察とカンファレンスでスタッフの意見を反映して作成しています。	入居までに家族の意見などを取り入れ暫定ケアプランを立て、1ヶ月後にモニタリングをして必要な関係者の意見を取り入れ修正し、本ケアプランを立てています。その後は3ヶ月ごとに見直しをしています。急変時はその都度見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	3か月ごとの見直しを行っています。またADL変化に応じて見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況を把握しご家族様にご相談しながら支援させて頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事にも参加させて頂き楽しんで頂けるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の訪問診療以外にも看護師と連携を取り支援しています。ご家族様にも必要に応じては看護師から適切な説明をしています。	入居前からの医師への受診は家族が対応しています。協力医療機関が月2回、歯科医週1回の往診があります。他診療科については、提携病院に職員が同行しています。訪問看護は週2～3回健康管理や嚥下、じょくそうなどの確認をしています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携、処置表でドクターや看護師と連携を取り、不明な点は直ぐに電話連絡し指示の下、支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ドクターや看護師からご本人様の状況を説明させて頂き、必要であればドクターに診断書を書いて頂き、入院先の病院と連携を取っています。また病院にも頻りに面会に伺い、様子確認と現状をお聞きして把握しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	書面を含め、面会の際ご家族様とお話し合いを行ったり、ドクターや看護師から説明させて頂いて、看取りの方針を決めています。	重度化した場合の対応については入居時に家族と本人に説明しています。「終末期医療」「重症化」「看取り」については時期を踏まえて、家族の同意を得て、医療や看護、介護との連携を整えています。数例のターミナルケア・看取りの実績があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に看護師に勉強会を開いて頂き、常日頃からレベルアップ出来るよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回消防訓練を行っています。夜間想定避難訓練には近隣住民の方にも参加して頂いています。	利用者全員が参加し、夜間想定を含む避難訓練を消防署立ちあいのもと、年2回行っています。備蓄品は飲料水や食品、カセットコンロ、介護用品など一週間分を場所を分けて保管しています。自家発電の設備もあります。	近隣の地域住民や施設との連携協力体制作りが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	全員出来ていると思いますし、常日頃より意識して入居者様に接するよう指導しています。	職員の行動規範は「CRED(クレド)」に書かれており、毎日確認しあっています。日常業務の中では利用者を尊重し、性格や心身状況に応じた言葉掛けや対応を工夫し、場合により管理者が助言や指導をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様のお気持ちを考え、傾聴して自己決定して頂けるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り入居者様のその日の気持ちを尊重して支援させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人様の希望を重視し支援しています。また季節に応じた服装や、髪型など出来る限りオシャレにも気を付けています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	パンや麺類が苦手な入居者様にはその方用にご飯を提供し、「飲み物は〇〇が良い」と言う希望には徹底して好みの物を提供させて頂いています。お手伝いに関しては無理のない程度でお願いしています。	食材は業者から毎日納入され、職員がレシピに沿って調理しています。状態に応じておかゆやミキサー食に替えています。職員が介助したり、会話を楽しみながら食事をしています。簡単な盛り付けや片づけ、食器拭きを行う利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	種類、味、量などを含め、水分摂取が進まない入居者様も無理なく摂って頂けるよう支援しています。また食欲が進まない入居者様にはお好きな物を購入して召し上がって頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い、必要に応じては訪問歯科に見て頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各入居者様のADLに合わせて支援させて頂いています。	排泄の自立に向け、排泄表を活用しています。利用者のできることを尊重し、声掛けや誘導、見守りをしています。夜間にポータブルトイレを使用する場合があります。声掛けや見守りの際にも、プライバシーに配慮することを心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事形態は勿論の事、水分不足、運動不足やストレスなど便秘の原因になる様子を検討し、ドクターと看護師に相談して、お薬も含めて対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時は声かけをし、可能な限りご本人様の希望に沿った日に入浴して頂いています。また今は希望もあり毎日入浴されている入居者様もいらっしゃいます。	週に2回、日中に入浴しています。入浴拒否の場合には時間をずらしたり、声掛けの工夫をしています。身体状況により機械浴槽を利用してゆっくり湯船につかることができます。皮膚疾患や冷え症の人は毎日の足浴も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	年齢や体調を考慮してお一人お一人に合わせてメリハリのある生活が送れる様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師の指導や内服説明書を見て支援出来るよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お話の中から聞き出し、支援に繋げています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お散歩や外出レク等に出かけるなどして支援しています。時にご家族様に協力を得てご本人様の希望に添えるよう努めています。	体調に配慮しながら、近隣の散歩や外気浴をしています。けいこ事に通う利用者もいます。車で、みんなと一緒に三浦海岸や稲村ヶ崎へのドライブに出掛けています。花見では、逗子ハイランドや国際村などに出掛けることもあり、車いすの人も参加しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金をご本人様に所持して頂く事はしていませんが、一緒に買いに行くなどして支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お一人で電話をかけれる方には、ご自由に使って頂きお友達とお話して頂いています。また、かかって来た時はお繋ぎして話して頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	畑や花壇に季節の物を取り入れ、皆様に楽しんで頂けるよう支援しています。また照明は常に全部点ける事で明るい施設に成るよう努めています。	リビングは、普通の家と同じと考え、絵や置物などがさりげなく飾ってあります。壁や床は木材の自然な色調になっています。採光は十分にあり、ソファやテーブル、テレビコーナーが利用者の使いやすいように配置されています。廊下や浴室、トイレ内も十分なスペースがあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1人1人の状況に合わせ、好きな場所で過ごして頂けるよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様にお話しをさせて頂き、自宅で使っていた物を可能な限り持ち込んで頂いています。	居室にはエアコン、クローゼット、介護ベッドが設置されています。安全性に配慮しながら、利用者の使い慣れた電化製品や家具類を持ち込んでいます。写真や装飾品など好みに応じて配置しています。職員が声掛け見守りながら衣類の整理など行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すり、段差など安全に考慮した作りになっています。		

事業所名	グループホームちいさな手 横浜かなざわ
ユニット名	2階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	全スタッフにクレドカード（企業理念・介護理念・社是・行動規範が書いてあるカード）を持たせ、毎朝送りの時に出勤者全員で読み上げる事で共有して実践出来るよう取り組み意識向上に努めている。また各フロアの目標は事務所に張り出す事で共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	お花を習いに行ったり、選挙に行くなど、入居後も地域との交流が継続出来るよう取り組んでいる。また今年から関東学院の先生・生徒さんと交流を始め、お互いのイベント交流を図り、運営指針会にも参加して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の際、お伝えさせて頂いています。まだ実現出来ていないが認知症カフェなど交流を深められるよう計画している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回必ず行い、地域ケアプラザ・小規模多機能・デイサービス・民生委員・ご家族様・看護師・関東学院の先生など多種多様の方に参加頂き、地域一丸となって行けるよう貴重な意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の報告は必ず行っています。また入居者様に対する質問などある時はご相談させて頂き連携を取っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関先に張り紙を掲示し、常日頃からスタッフに周知することで徹底しています。また「命の危機がある場合」「他に方法がない場合」「一時的な対応の場合」など、どうしても必要な場合（センサーや鈴など）はご家族様に説明し理解して頂いた上で署名を残して対応させて頂いています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	「身体的虐待」「心理的虐待」「介護世話の放棄・放任」など如何なる事に対しても一切行わないよう指導しています。また、スタッフのストレスから来る反射的な虐待も考えられる為、スタッフの心理的ケアも行い100%防止を目指しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ホーム長と副ホーム長は本部会議にて学び、ミーティングや日頃の会話の中で少しずつ伝えていきます。また各々「介護福祉士」「認知症ケア専門士」「介護支援専門員」など受験するにあたって学んでもいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に本部の職員同席にて、ご説明させて頂いています。また変更があった時も速やかに連絡させて頂き、不明な点は個々に説明させて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に入居者様の状態を説明させて頂き、医療面に関してはドクター・看護師から、電話やホームまたはクリニックに来て頂き説明させて頂いています。また半年に1回家族会を行い、本部・看護師も参加して、意見交換をさせて頂いています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングを含め、頻繁にスタッフと話す機会を作っていますが、スタッフからも質問・意見を遠慮なく言いに来て下さるので、必要に応じて本社にも相談して、より良いホームになるよう取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	「人間関係」「各々の能力にあった指導」「徹底した希望休を取り入れたシフト作り」「職場の雰囲気作り」などを中心とした働き易さを追求し、やりがいを持って仕事に取り組んでもらい、公平な目で評価する事に心がけています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	1人1人の経験、力量を把握して慌てずゆっくり覚えて頂けるよう努めています。ホーム内で勉強会を開き指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	運営推進会議などで地域ケアプラザや小規模多機能と交流を深め、質向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時ご本人様に趣味や日課などお聞きした上で、好きな事を継続して続けて頂けるよう支援すると共に、1日も早く環境になれて頂けるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時、ご家族様のご意見を伺い、ケアプランを通してご希望に答えられるよう取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居後も頻繁にご家族様に現状連絡をする事で、安心して頂けるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様とスタッフ間の関係では無く、ご両親のようでお友達のような付き合いが出来ていると思います。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	元々入居者様のご家族と知り合いのスタッフもあり、自然と良い関係が出来ていると思います。またご本人様とご家族様の気持ちを最優先に考えたケアを心がける事で信頼を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	入居前のお友達が頻繁に来られたり、散歩時お友達のお家に遊びに行くなどされる入居者様もいらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士でも好き嫌いがあり、中の悪い方もいらっしゃいますが、スタッフが間に入ってトラブルにならないよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご相談の際はお話を聞かせて頂き、協力させて頂いています。またご家族様の希望で運営推進会議に参加して頂いている方もいます。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	面会に来られた際やアセスメント作成の際お話の中で何を求めているのか傾聴し反映しております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時ご家族様からお聞きしケアプランに反映させて頂いたものを始め、日頃よりご家族様、ご本人様に話を聞き把握出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	常に入居者様に目を配り、お話するなどして把握出来るよう努めています。また月に一回のミーティングでカンファレンスも行い、皆の意見を反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	常日頃からの観察とカンファレンスでスタッフの意見を反映して作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	3か月ごとの見直しを行っています。またADL変化に応じて見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況を把握しご家族様にご相談しながら支援させて頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事にも参加させて頂き楽しんで頂けるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の訪問診療以外にも看護師と連携を取り支援しています。ご家族様にも必要に応じては看護師から適切な説明をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携、処置表でドクターや看護師と連携を取り、不明な点は直ぐに電話連絡し指示の下、支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ドクターや看護師からご本人様の状況を説明させて頂き、必要であればドクターに診断書を書いて頂き、入院先の病院と連携を取っています。また病院にも頻繁に面会に伺い、様子確認と現状をお聞きして把握しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	書面を含め、面会の際ご家族様とお話し合いを行ったり、ドクターや看護師から説明させて頂いて、看取りの方針を決めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に看護師に勉強会を開いて頂き、常日頃からレベルアップ出来るよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回消防訓練を行っています。夜間想定避難訓練には近隣住民の方にも参加して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	全員出来ていると思いますし、常日頃より意識して入居者様に接するよう指導しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様のお気持ちを考え、傾聴して自己決定して頂けるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り入居者様のその日の気持ちを尊重して支援させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人様の希望を重視し支援しています。また季節に応じた服装や、髪型など出来る限りオシャレにも気を付けています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	パンや麺類が苦手な入居者様にはその方用にご飯を提供し、「飲み物は〇〇が良い」と言う希望には徹底して好みの物を提供させて頂いています。お手伝いに関しては無理のない程度でお願いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	種類、味、量などを含め、水分摂取が進まない入居者様も無理なく摂って頂けるよう支援しています。また食欲が進まない入居者様にはお好きな物を購入して召し上がって頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い、必要に応じては訪問歯科に見て頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各入居者様のADLに合わせて支援させて頂いています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事形態は勿論の事、水分不足、運動不足やストレスなど便秘の原因になる様子を検討し、ドクターと看護師に相談して、お薬も含めて対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時は声かけをし、可能な限りご本人様の希望に沿った日に入浴して頂いています。また今は希望もあり毎日入浴されている入居者様もいらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	年齢や体調を考慮してお一人お一人に合わせてメリハリのある生活が送れる様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師の指導や内服説明書を見て支援出来るよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お話の中から聞き出し、支援に繋げています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お散歩や外出レク等に出かけるなどして支援しています。時にご家族様に協力を得てご本人様の希望に添えるよう努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金をご本人様に所持して頂く事はしていませんが、一緒に買いに行くなどして支援しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お一人で電話をかけれる方には、ご自由に使って頂きお友達とお話して頂いています。また、かかって来た時はお繋ぎして話して頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	畑や花壇に季節の物を取り入れ、皆様に楽しんで頂けるよう支援しています。また照明は常に全部点ける事で明るい施設に成るよう努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1人1人の状況に合わせ、好きな場所で過ごして頂けるよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様にお話しをさせて頂き、自宅で使っていた物を可能な限り持ち込んで頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すり、段差など安全に考慮した作りになっています。		

平成27年度

## 目標達成計画

事業所名 ちいさな手 横浜かなざわ

作成日： 平成 28 年 3 月 12 日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		ホーム周辺は一軒家が少なく真新しい集合住宅が立ち並び、近隣の住民の方々との交流ができていません。ご近所様との交流を深めたい。	できれば日頃のレクリエーション等、ご近所様にもお声かけし参加していただけるような機会を設けたい。	町内会を通じて近隣にはどのような方々がお住まいなのかを調査しご理解いただけそうな方々には直接ご挨拶にお伺いしたい。	6ヶ月
2		地元町内会に加入はしているが交流があまり成されていないので催し物などに積極的に参加し交流を深めたい。	ホームの存在や地域密着度を町内会を通じて地元の皆様へ発信、理解していただく。	地域近隣にお住まいの方や町内会長様を介して町内会の活動を認識し協力出来そうな活動については出来るだけ協力させていただく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月